

1 研究主題

「評価を生かした学びと言語活動を通して行う授業の在り方」

～地域の特徴や児童の実態を生かした単元づくりを目指して～

2 主題設定の理由

AI が急速に発達している今、来るべき Society 5.0 時代に生きるわたしたちは、学びの場はもちろんのこと、社会生活を営む上でも ICT を効果的に活用する力をつけることは必須となっている。同時に、人と人とが繋がり協働する力をつけることも、新たなもの・ことを生みだし発展させるには不可欠である。そこで必要となってくるのが言語によるコミュニケーション能力である。小学校教育においては、昨年度4月1日より、外国語科・外国語活動の全面実施が始まった。中学年で音声言語に慣れ親しみながら外国語学習への動機づけを高めていき、高学年では段階的に文字を「読む」・「書く」に慣れ親しむことを総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることを重視している。また、学習指導要領には、外国語を通じて他者とコミュニケーションを図り伝え合う力を高めることで、積極的に人や社会と関わり、自己を表現し、他者と共感するなど互いの存在について理解を深め、尊重しようとする態度を育成していかなければならないことを示してあるということは、これまでも述べてきた通りである。

本校では、平成30年度に佐賀県研究指定を受け、これまで3年間、外国語教育の研究に取り組んできた。互いの考えや気持ちを伝え合う「言語活動」を中心とした授業づくりと、学習指導要領に基づいた目標・指導・評価の在り方に焦点化し、研究を深めてきた。自分の思いを伝えたい、相手の思いを知りたいと思う活動の設定を行うことで、児童が思考を働かせる姿を見ることができた。また、指導と評価を一体化させ、コミュニケーションを育むための手立ての工夫を行うことで、会話を続けたり話を受けて質問したり答えたりする姿が見られるようになった。このように手立てを積み重ねて指導を行なっていった結果、関わり合う楽しさを実感しながら、主体的に自分の思いを伝え合うことができるようになった。よって、児童が安心して取り組んでいけるよう、厳木小学校の実態に即した目標・指導・評価の在り方を構築していくことができた。

そこで、これまでの研究を土台に新たな研究の再出発となる今年度は、「評価を生かした学び」「本物の言語活動」を意識した授業づくりと「地域の特徴や児童の実態を生かした単元づくり」に焦点を当てる。「評価を生かした学び」とは、一つは形成的評価、つまり、中間評価や授業の終わりの評価を生かした学びを指し、児童の学びのよさを見取り、活動の途中で全体に伝えることで、児童の意欲の向上や活動のレベルアップ等につなげたり、授業の終わりには振り返り活動を行い、そこから成果と課題を見出し、次の授業の改善につなげたりするものである。もう一つは総括的評価、つまり、記録に残す評価を指し、児童の記録を次の単元の指導につなげるものである。これらの評価により、「指導と評価の一体化」をより意識的に行なっていきたい。また、「本物の言語活動」とは、「相手意識」や「目的意識」をもって自分を表現したり相手を受け止めたりする活動と定義づけ、言語活動により、言葉への慣れ親しみと表現活動の充実を図りたい。そして、地域の特徴や児童の普段の生活と結びついた本校ならではの単元づくりをすることで、「相手により詳しく思いを伝えるためにはどうしたらいいだろう」「知っている簡単な英語を駆使し、工夫して伝えよう」などといった、自己を表現し他者と共感しようという思いを深めさせたい。このような研究を進めていけば、小学校外国語教育が目指す授業が組み立てられ、言語によるコミュニケーション能力、そして人と協働する力を兼ね備えた児童を育成することができると考え、本主題を設定した。

3 研究の目標

地域の特徴や児童の実態を生かした単元づくりをする中で、言語活動を通して学んでいく指導の在り方と、指導と評価の一体化の在り方を探る。

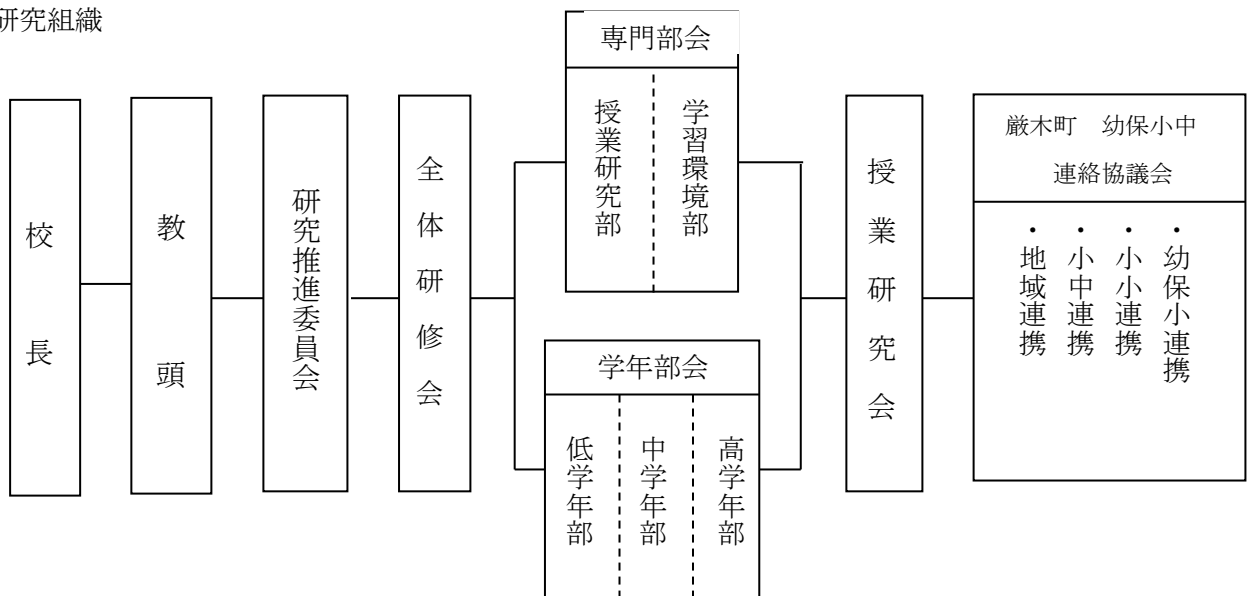
4 研究の仮説

地域の特徴と児童の実態を生かした単元づくりを進める中で、目的・場面・状況に応じて自分の考えや気持ちを伝え合う活動を設定し、指導しながらの評価、あるいは、評価しながらの指導を進めていけば、外国語教育の深化と充実を図れるであろう。

5 研究の内容

- (1) 教師の指導力の向上
- (2) 形成的評価（学びに生かす指導＝指導と評価の一体化）の在り方の追及
- (3) 総括的評価（記録に残す評価）計画の見直し
- (4) 単元全体で行う言語活動を充実させた授業づくり
- (5) 地域の特徴や児童の実態を生かした単元づくりと教材開発の推進

6 研究組織



◎研究推進委員会 : 校長 教頭 教務 研究主任 副主任

<学年部会>

◎低学年部（1・2年） : 宮崎 中島 堤

◎中学年部（3・4年） : 松尾 佐々木 野方 教務

◎高学年部（5・6年） : 古賀 片渕 教頭

<専門部会>

◎授業研究部 宮崎、野方、片渕、古賀、佐々木、教頭

◎学習環境部 中島、堤、松尾、梶原、教務

7 研究の計画

- (1) 研究機関と研究教科・・・2年計画（1年次），外国語科・外国語活動
- (2) 仮説検証の方法をとり，授業研究会を検証の場とする。

(3) 年間計画

月 日	全体研修会	専門部	学年部
2021年度 4月2日(金)	・令和3年度の研究概要説明(研究主題・研究内容, 日程の検討) ・外国語活動実施に向けての確認(時数・ALTの配置等)		・専門部委員決定 ・役割分担と目標, 活動内容の協議
4月5日(月)			・役割分担と目標, 活動内容の協議
4月7日(水)	・学年部の目標・活動内容等の提案	・役割分担と目標・活動内容等の検討	
4月28日(水)	・研究概要の提案・検討 ・専門部の目標・活動内容等の提案		
5月19日(金)	・各専門部より提案	・準備作業等	
6月16日(水)			・G研, 全体研 指導案検討
7月29日(木)	・夏季休業中, 2学期の日程提案	・夏季休業中, 2学期以降の活動計画 検討 ・準備作業	
8月25日(水)	※講師招聘①(講話) ・授業研日程確認	・2学期の活動準備 ・準備作業	・G研 全体研の指導案検討(各学年部会ごとに) ・授業準備
10月?日(?)	3年G研		
10月21日(木)	4年全体研授業① ※講師招聘②		
11月?日(?)	6年G研		
11月22日(月)	5年全体研授業② ※講師招聘③		
11月17日(水)		・専門部より提案	
12月8日(水)	・冬季休業, 3学期研修計画・確認	・まとめ作成作業, 役割分担	・まとめ作成作業, 役割分担
1月26日(水)	・児童アンケート結果概要報告	・研究のまとめに向けて成果と課題の協議	
2月2日(水)			・研究のまとめに向けて成果と課題の協議
2月9日(水)	・各部より研究のまとめ報告 ・来年度の研究についてのアンケート実施		
3月2日(水)	・来年度にむけて研究の方向性について協議		